



クリエイターとして、また専門学校の講師として、幅広い活動をしている李友未さん

起業のパターン
 独立
 定年後
 早期
 主婦
 その他

有限
 会社
 リーググラフィ
 李友未さん

おもな事業内容
 ウェブサイトの企画・制作、プレゼンツール、3Dグラフィック、映像などの制作
 会社設立/2005年

10年あまり前、CG制作などを学ぶため東京の専門学校に留学。その後、日本の会社に就職し、縁あって札幌にきた。2005年には会社を設立し、クリエイターとしての活躍を続けている。

東京の専門学校に留学して

アジア諸国のなかでも、特に韓国のIT分野に近年、注目が集まっている。

韓国出身で、ウェブサイトやCG制作のクリエイターである李友未さんは「韓国というと、日本の人はIT先進国という第一印象で見てください。韓国出身であることは、日本でこの仕事をするうえでメリットです」と話す。

韓国・ソウル市生まれの李さんは、弘益大学美術学部を卒業後、1996年から東京のマルチメディア専門学校《デジタルハリウッド》に留学し、CGデザインなどを学んだ。東京を留学先を選んだのは「アジアのなかでも、東京がデザインの先進地だと思ったから」だ。最初のうちは日本語も不自由で苦労が多かったというが、やがて言葉をマスター。6カ月の予定を1年に延ばし、卒業後は東京のゲーム制作会社に、正社員として就職した。

札幌に縁ができたのは、その後たまたま仕事先として紹介された別の制作会社が、

札幌に本社をおいていたことから。李さんの札幌での暮らしが始まるのは1999年12月のことだ。

来日してからすでに4年ほどを過ごしていたが、雪に覆われる札幌はまったくの別世界に思われた。寒いし、道は滑って歩きにくい。でもイヤだと思ったのは最初のうちだけだった。やがてスノーボードも始めて、雪国に暮らす楽しさを感じられるようになっていく。

独立開業の場所は札幌に

その後の2002年、勤めていた制作会社を辞め、クリエイティブの仕事での独立を決めた。独立であるから当然、拠点を置く場所は自由を選ぶことができる。東京に戻るといふ選択肢もあったが、李さんはあえて札幌で仕事を続けることを決めた。その理由を、彼女はこう説明する。

「ネット上で仕事ができるから、東京にいない必要はありませんでした。札幌にはいい人材がいるし、家賃や人件費が東京に比べて安いのもメリットだと思います」。

李 友未さんの これまでの歩み



●韓国ソウル市生まれ ●弘益大学美術学部卒業 ●1996年来日。日本語を勉強しながら《デジタルハリウッド》東京校でCGなどを学ぶ ●同校卒業後、ゲーム制作会社に就職 ●1999年、札幌に本社のある会社に就職して札幌へ ●2002年独立 ●2005年4月《有限会社リーグラフィ》を設立

李 友未さんへの Q&A

Q. 社名の由来は？

A. 英語で「再び」「新たに」などの意味の接頭語“re”に“graphic”を合わせ、「新しいグラフィックデザインを作り出す」といった意味にしました。名前が「リー」だから？ってよく間違えられますが、私の名前は“Lee”です。

Q. 将来の夢を教えてください

A. 自社ビルを建てる！もちろん建物のデザインは自分でして……。10年後かな？

有限会社 リーグラフィ

〒060-0052
札幌市中央区南2条東2丁目9-8
大都ビル 709号
tel 011-223-0077
fax 011-223-0033

<http://www.regraphy.com/>



2006年に開催された、札幌市・モエレ沼公園でのイベント《モエレメント2006》におけるアートパフォーマンスの模様。李さんは2004年から毎年、このイベントに参加している。

独立した李さんは、まずはSOHOとして自宅仕事を始めた。しかし外部との接点が必要と考えて、オフィスを別に設けることにする。

2003年、最初に入居したのは《札幌インキュベーション・ゾーン SIZ》という施設だった。《北海道ベンチャーキャピタル株式会社》が起業支援の一環として、創業準備中、または創業間もない事業者に貸し出すオフィススペースだ。

2005年からは《インタークロス・クリエイティブ・センター》(ICC)に仕事の場を移した。《財団法人さっぽろ産業振興財団》が運営する施設で、デザイン系の仕事をする人が多く集まっている。

「SIZでは企業の人などビジネスの繋がりが、ICCではアートの世界の仲間を増やすことができました」と李さん。異なる2つの「インキュベーション施

設」に入ったことが、人的ネットワークを拡げるのに役立ったという。

《有限会社リーグラフィ》設立

2005年4月には会社設立の登記を行い、《有限会社リーグラフィ》を立ち上げた。事業体としての形をしっかりとさせることが狙いだった。資本金は20万円、最低資本金の特例制度を利用している。

現在の仕事の内容は、ウェブサイトの企画・制作、映像や3Dグラフィック、プレゼンテーションツールの制作など。クライアントのおよそ8割は札幌の企業、残りの多くは東京で、韓国の顧客はごくわずかだという。

「韓国の技術力に、日本の色彩やデザイン感覚を取り入れたのが私の独自性です。その点がほかとの差別化になれば……」と李さんは話す。

現在、会社では李さんのほかに2人のスタッフがいる。十分な仕事量を確保しているようだが、営業活動はあまりしていないという。

「もともとアートの仕事に専門なので、営

業はあまり得意じゃないんです。人のついで仕事が入ってくるのがほとんど(李さん)。それでも活動の幅は広く、これまでに制作を手掛けたウェブサイトは、100件を超える。制作の仕事のほか、札幌にある2つの専門学校で、CG制作などの授業も受け持っている。

2006年8月には、札幌市のモエレ沼公園で行われた音と映像のイベント《モエレメント2006》に、アーティストのひとりとして参加した。これも2006年まで仕事場としていた、ICCでの人脈がもたれている。

「札幌は、空気や水がおいしくて住みやすいですね。ウインタースポーツも気軽に楽しめるし……」と李さんは、仕事以外の面でも札幌の街を気に入っている。

札幌に来て間もなく始めたスノーボードにすっかりハマっていて、今では毎週末のように自分で車を運転して、ニセコあたりまで出掛けて行くほどの熱の入れようだ。

この札幌という街を拠点に、「洗練されたデザインと、高い技術力を発揮できる会社を目指したい」と、李さんは語る。